

## 2021 年度会長特別委員会

### 「コロナ後の”土木”のビッグピクチャー」特別委員会(第3回)

#### 議事要旨

■日時:2022(令和4)年2月1日(火)15時~17時

■形式:オンライン(Zoom)

■出席者:谷口委員長、屋井副委員長、塚田幹事長

上田委員、太田委員(代理出席:加藤)、鹿野委員、川崎委員、楠見委員、高橋(秀)委員、塚原委員、水谷委員木俣幹事、白水幹事、田名部幹事、中島幹事  
オブザーバー出席)

将来インフラ WG

小池主査、今井委員、大西委員、楠田委員、杉本委員、中村委員、日比野委員、山田(順)委員  
各支部 WG

#### 1. 会長挨拶

(略)

#### 2. 前回議事録の確認(事務局)

(略)

#### 3. 「22世紀の国づくり」の紹介

(略)

##### 【コメント】

##### (中村委員)

- この提言はマズローの欲求モデルが基礎となっている。
- この時の委員構成と比較して、BP 特別委員会は多様なバックグラウンドを有する委員で構成されており、議論により深みがある。この議論をどこまで文章化出来るかが重要。

##### (谷口会長)

- 30年、50年、100年とあるが、2050年ぐらいをメインにして欲しい。社会と土木の100年ビジョンの大枠を巻頭言で整理すればうまくまとまるのかもしれない。
- 私としては、コロナ後の「日本創生」「土木の」という点に軸を置いている。CNも2050年と言われているし、政府の5年計画の間の話。もう少しインフラと経済の関係に重心を移せばメッセージ性が出るのではないか。

##### (屋井副委員長)

- 会長の話のとおり連携が取れれば良いと思う。提言を読んだが識者のエッセンスだけがまとめられている。具体的な提言は2~3ページ。その中に土木の人に対して「長期計画を作れ」って書いてあり、谷口会長の取り組みにつながっている形。「22世紀の国づくり」も含めてこれまでの土木学会の提言とみなつながりがあることを示すことは土木学会らしくていいと思う。
- マズローはもともと会社のニーズを整理しており、死ぬ間際に6段階にした。我々の土木ではそれでOK。一方で「22世紀の国づくり」では自己超越欲求が唐突に感じる。「国民が幸せを感じる」だとするとロジックが分かりにくい。つまるところ成長欲求?トランセンデンス?国がより一層富まなければならないというのは?そのロジックを知りたい。

(中村委員)

- 「22世紀の国づくり」では、バックカastingで個の尊重が最初に出てくる。その背後のロジックは委員でもバラバラではなかったか。少し忘れてしまっているのので後で振り返ってみたい。

(小池委員)

- Well-being、つまり幸せということだが、インフラを作れば Well-being が上がるのか？
- 幸せの定義の1つは心配ごとが無いこと。これを「安寧」と呼んだりする。これがインフラの役目にマッチしていると思う。それが確保できた後、我々の幸せを追求する。土木が出来ることは幸せのため心配事をなくすことであり、Well-being を土木が作ることはできないと思う。
- 国土計画や BP は空間配置だけでなく時間的配置も考えるものである。しかし、これまで時間的なメカニズムには言及したものはなかった。唯一岡田先生の五重塔モデルが時間スケールについて言及している。高度経済成長期は上の層を見てインフラを作ってきた。本来は文化や歴史にインフラをどうつなげるかが BP として重要。これまでは上への働きかけ。これからは下への働きかけ。津々浦々に住めるという憶測、時間的なメカニズムと well-being とのつながりが BP の目玉になると思っている。将来インフラ WG ではこのような考えを報告する予定である。

(谷口会長)

- 五重塔の左に描かれている模式図は？

(小池委員)

- 左の図は大石先生が示しているもの。もっとゆっくり変わるというものが岡田先生のモデル。私は3本柱で説明している。文化・伝統を作っていくためにインフラを作るという説明をしたい。

## 4. BP 記載内容についての質疑

### 4.1 第1章

(谷口会長)

- 第1章は全体を総括する部分であり、もっと書き込むべき。
- 心配をなくすなど、土木の考え方を書いていく。また日本全体のパラダイムシフトが大事ということを書き込むべき。文化への貢献も書き込まないといけない。
- 時空間については同感。防災・減災、維持管理・更新だけでは真のストック増にならない。マズローも五重塔もいいが、将来世代のための真のストック増が必要であることを示す必要がある。未来への投資、持続的な成長可能を支えるインフラ、それが土木の役割であることについて時間軸を考慮して書き込む。
- これまでの延長線上ではなく変わるべきだということをインパクトあるように示すべき。

(塚田副会長)

- 社会と土木の関わりをしっかりと書くべき。我々のスタンスを示すべき。

(屋井副委員長)

- 会長のおっしゃる通りだと思う。第2章で現状認識を示しているが、論文だとうなるが、事細かく書くことより強く押し出すところを書く。グレートリセット、アジャイル、変えなきゃいけないこと、貫いていくこと、を上手く書くことが必要。

### 4.2 第2章

(谷口会長)

- 現在の骨子に挙げられている現状認識は仮置きだと思うが、問題認識に特化して整理すべき。

(小池先生)

- 第2章に合わないようだったら巻頭言に入れてここには書かない。

### (川崎委員)

- (図[『地理院地図』]に登録されている自然災害伝承碑)を画面共有しながらこれは過去の災害の伝承碑を落とした図である。問題提起したいことは東日本大震災が起こるまで三陸道が全国並に整備できなかったこと。反省すべき。津波が来ることはみんな知っていた。しかし、そのあと社会にどうということが起きるのはみんな知らなかった。復興に必要なことを説明できていなかった。みんな反省しなきゃいけない。
- 実は北海道も危ない。しかしその後、何を準備しなきゃいけないかについては十分に議論がなされていないのではないかと。
- 南海トラフが来た後、どう復興するのか。国損は直接被害より復興の遅れによる停滞の方が大きい。BPでは議論されていない。備えとして実装されていない。役所では言いにくいことなので是非土木学会で言って欲しい。国難への備えをBPに入れて、四国など備えるような話を入れて欲しい。北海道も危ない。復興のためのインフラがないと危ない。紀伊半島から四国、九州、今の生活を守るためのインフラでさえ足りないのに発災後に早期に復興できるのか、国にアピールして欲しい。

### (谷口会長)

- 首都直下、南海トラフ、富士山噴火は現実起こりうる。どこに書けばいいかわからないが、川崎委員の問題意識を受けとめて、計画的・効率的な話だけでなく先行的・事前的にやるべきことも書くべき。

### (小池先生)

- 内閣官房の国土強靱化の会議に参加しているが国難とは何かをちゃんと議論していない。私の定義では東日本大震災や阪神・淡路大震災は国難レベルではない。資金も資源も国内で調達できている。南海トラフではそれが出来なくて外国資本が入ってくる、これが国難だと思っている。
- 災害について書かないといけないうのは大前提。加えて都市部についても問題で日本が日本でなくなることが国難であり、項を変えて書くべき。最前提である安全について書くことに加えて国難についても書く。

### (塚原委員)

- 日本の政府の防災は人命救助、救命の話がほとんど。経済や復興、国難についての話がない。対応する役所もない。土木学会として問題提起することは大事。
- 救急救命のための道路と産業維持のための道路は違う。災害時、道路は救急救命のために使われ、産業は使えなくなる。トヨタの生産活動をどうやったら維持したらいいのか。

### (楠田委員)

- 田舎がなくなることはすごく悲しいので津々浦々は賛成。
- 一方、ここは危ない、助けに行けない、というようなところに住まわれるのは困る。住むべきでないところに住むのを控えることにより里がなくなることは許容すべきでは。移り住んでいただいた方が幸せということもあると思う。

### (屋井副委員長)

- どうやって書くかという問題はあるが、明快に書く対象であり、もう少し議論すべき。土木としては総論しては分かるけど個々ではいろいろあると思う。ロジックを分かりやすくすべき。
- 三陸復興道は経済復興のために作ったと理解している。復旧のためではなく将来のために整備。持続可能になるように経済面から支える必要あるよねって世論があったから進められて計画としていきなり位置づけられ、10年経ってようやく開通して良かったねという話だと思う。三鉄も。前もって道路を作っておかなければならないという議論もあるのかも知れないが、三陸道をそれに結びつけることはすっきりしない。

### (谷口会長)

- この議論は次の第3章の議論だと思っていた。分散型国土形成、これがなかなかハッキリしていない、推進されていないということが問題だと思う。リスク分散型国土形成を目指すのが重要だと思っている。これをもう少し強く打ち出して欲しい。
- 国策としては国土強靱化と地方創生の2つだと思う。東京から人を移すのではなく、地方がそれぞれの特色を持って創生する。東京と地方が共存できるという理念である。東京はリノベーション、地方は東京と違う価値観、ということが第3章で書くべき目指すべき国土像の理念では。

**(山田委員)**

- コロナ禍で顕在化したものの1つが格差問題。ヨーロッパは結束政策で対応。人と物の自由な移動。300兆円を投資、交通インフラを東方に重点的に配分。格差と土木インフラが近い関係であることが分かる。格差是正のためには土木インフラが必要ということを書けないか。

**4.3 第3章・第4章**

**(谷口会長)**

- 災害だけでなくコロナでもハッキリしたのは人が動かないと経済も回らないということ。
- リスク分散型国土形成が重要だという根幹は交流であり、陸海空の交通ネットワーク強化が必要不可欠だと思っている。これを強く打ち出して欲しい。

**(水谷委員)**

- 交流、交通は重要な視点である。特に自分で運転できるのであればよいのだが、運転できないと移動手段がなくなれば、バスがなくなればどうなるのか。利用者目線で最低こういう交通サービスを維持しないと書けないと書かないといけない。ものを作るだけでなくサービスをどう維持するかを書かないと国民目線にならないと思う。

**(田邊委員)**

- 広域的な交流ネットワークについては今までも新幹線・高速ネットワークを整備してきた。今までとはどう違うのかをきちんと意識して書き込んでいかないとインフラを作りたいから書いていると言われかねない。
- インフラだけでなく制度に言及しないと書けない。分権といいながらそれが進んでいないのはなぜかを書くべき。

**(日比野委員)**

- 時間軸が一番重要だと思う。現状認識・問題点の解決は近いところの解決で今までと変わらない。一方、100年先は変わらない。アジャストするところと変えないところ、今までの考えと違うところを先に書いた方が違うという印象が出るのではないかと思う。

**(小池委員)**

- 個別の社会・行政への要望はいくらでもあるので入れると切りがない。BP というからには長期の考え方を示して、例えばこういうもの、というように書くことにしないとまとまらないのではないか。全体像、哲学を書いて、例えばを書いた方がBPらしいのではないか。

**(屋井副委員長)**

- 第3章はあるべき論だからインフラ先行では書きづらいが、交流については書いて欲しい。道路も空港・港湾も。
- 維持管理も重要だが、その重要性が伝わらないのは伝えてないということもあるので、維持管理をすることによりどれだけのサービスが出来るかを書いて欲しい。
- 近い時間軸になるが、今国会で脱炭素の関係で空港の計画が法制化され、将来ビジョンを持てるようになる。脱炭素のおかげで空港が息を吹き返すかも知れない。将来の技術では着陸帯に太陽パネルを置くことができるようになり災害時に周辺へ電力を供給できるようになるかも知れない。

- トータルの長期計画を持って将来、平時と災害時にどう貢献するか、財源も書いて、制度は本来こうあるべきだ、諸外国ではこうなっている、ということをおまじりうるさくならない程度に必要な条件としての観点で書かれるべきだと思う。
- 第3章でデジタル田園都市構想に言及されているが、本家の大平総理の田園都市構想を読むと安定した時代だからか今議論したようなことが書かれている。人間中心、日本の伝統、活力。一方、田園都市構想がダメだった理由は、理念・哲学はあるがアクションプラン、実現方策がないことだった。今回は方向感として似ているが少なくともどうやってやるのか、例えば10年間でなにをやるべきなのというのを提案できたらいいと思う。具体の地方の仕組みが変わらなければ出来ないのだから。第3章にどれくらいインフラを書くべきかについては整理があるべき。

#### (鹿野委員)

- 財団の資料で過去の長期計画をまとめているが、高尚な議論より目の前の投資額に頭がいてしまう。やはりインフラ投資は経済を回していくために必要。安全・安心、豊かな生活など高尚なことを言っても今の日本ではなかなか投資できないと思う。経済を伸ばすということが最低限必要ではないか。国土強靱化、維持管理は重要だが未来への投資、ストック増で伸ばさないと伸びないのでは。こういう成長のためにはこういうインフラがいるということは第3章に書かないといけなのではないか。財団の資料が出来たらそれで考えを紹介したい。

#### (楠田委員)

- 中山間地域、山の手入れをしていると動植物が出てきて、これらとの付き合いが文化と関係していると感じる。これらのメンテナンスが大切でそれが治水などにも関係しているが、それが維持出来なくていっている。
- これからは自然、河、動植物との付き合いが重要になってきているが出来ていない。そういうことも書くべき。中山間地域だけでなく海辺についても。

#### (谷口会長)

- 小池先生の整理がいいと思っている。8支部では若い人を中心に議論が進んでいる。8支部の提案の中で例えばという具体的なインフラを記述する方法でいいのではと思う。
- 財団でこれまでの行政の国土計画を整理したが、社会資本重点整備計画以降、投資額が出てこない。過去のレビューしたものを次回15分程度で概略説明して第4章の最後にどう位置づけるかを議論したい。
- 第2章ではインフラの健康診断・体力診断からインフラの現状についてきちっと書いていただけたらと思う。

#### (中村委員)

- 五重塔モデルは空間スケールに依らないモデル。欲求はより小さなレベルの議論の集合。個の欲求の追求はいきすぎた資本主義になる。空間スケールに依らないものは議論できているが、国の形とそれを支えるインフラの空間モデル化が出来ていない。

#### (屋井副委員長)

- スイスでは50人以下になったら維持しないとかあったと思う。津々浦々全部守るとことは共有できていない。「土木学会は津々浦々を守ります」というのは共有できないのではないかな。

#### (小池委員)

- 経済活動にはインフラは不可欠。一方、インフラ整備には国家観が必要。これが私が考える空間軸モデルである。国家観があればインフラスケール、許容する権利が決まる。緩やかな国家観自体は提案できない。文化を創るインフラで国民に国家観を持ってもらう。
- どういうレベルの人を助けるべきかについての議論はしないといけませんが、制度論となると難しい。考える機会を作るまでか。中村先生と議論して固めていきたい。

## 5. 今後のスケジュール等

### (塚田幹事)

- 今日の論点の中で具体的に述べたいことがあれば、部分で良いので事務局まで提言をいただければありがたい。具体的な文案、パーシャルでもいいのでいただけたらありがたい。それを見ながら草案 WG で固めていきたい。
- 次の委員会は 3/15 で、4/11、5/9 が最後となる。次回は鹿野委員に作成されている資料の紹介をお願いします。
- 最後まで悶々とするのは間違いないので積み残しも明記したらいいと思っている。

### (谷口会長)

- 土木の文明的な役割も書く必要がある。第3章のページ数は足りない気がする。逆に第4章はページ減でもいいと思う。

以上